

IPネットワーク管理・人材研究会（第1回）議事要旨（案）

1 日 時 平成20年4月22日（火）10時00分～12時00分

2 場 所 総務省10階 1001会議室

3 出席者

(1) 構成員（五十音順、敬称略）

飯塚 久夫、石橋 庸敏、上田 正尚、大島 正司、大野 聡、加藤 義文、
後藤 滋樹、酒井 善則、坂田 紳一郎（代理 能登 雅夫）、嶋谷 吉治、資宗 克行、
高島 宏一、佃 英幸（代理 藤沖 一郎）、土森 紀之、得井 慶昌、
徳広 清志、西尾 裕一郎（代理 福原 近）、本郷 公敏（代理 菅波 一成）、
宮川 潤一（代理 木村 潔）、三膳 孝通、矢澤 久司
山口 舜三（代理 吉田 光男）、吉村 辰久、渡邊 武経

(2) 総務省

寺崎総合通信基盤局長、竹内 電気通信技術システム課長、
菱沼 安全・信頼性対策室長、山下 電気通信技術システム課課長補佐、
大石 電気通信技術システム課審査係長

4 議 題

- (1) 研究会の進め方について
- (2) プレゼンテーション
- (3) その他

5 議事要旨

- 事務局より、「『IPネットワーク管理・人材研究会』開催要綱（案）」（資料1-1）及び「研究会の公開について（案）」（資料1-2）に基づき説明。了承。
- 座長として、後藤 滋樹 早稲田大学 教授が選出された。
- 座長代理として、酒井 善則 東京工業大学 大学院 教授が指名された。
【研究会の進め方について】
- 事務局より、「『IPネットワーク管理・人材研究会』について」（資料1-3）に基づき説明。
【プレゼンテーション1】
- 西日本電信電話株式会社の高島構成員より、「IP化の進展と人材育成の取組み」（資料1-5）に基づき説明。
【プレゼンテーション2】
- KDDI株式会社の嶋谷構成員より、「システム管理の課題と技術者育成における考え方」（資料1-6）に基づき説明。

【プレゼンテーション3】

○株式会社インターネットイニシアティブの三膳構成員より、「IP時代の人材育成について」（資料1-7）に基づき説明。

○ 質疑応答における主な内容は以下のとおり。

- ・ レガシーと混在していく環境の中で、両方が分かる技術者が必要となるか。
- 両方が分かる技術者は必要である。技術変革に伴い、新しい知識を社員がどのように身につけていくかが重要である。
- ・ ベンダー資格について、就職に有利であることから学生の取得傾向が増加しており、企業側も取得を促している。企業として人材育成の内容は出せない部分もあろうが、業界の中で共通な部分、コンセンサスがとれる部分、現状認識等が一致すると良いと考える。
- ・ グループ会社で認められている共通の資格があり、その資格を人材の交流で活用することで一般的には促進する方向にあると思うが、電気通信主任技術者等についても同様の効果があるか。
- 取得する推奨資格が決められている。専門分野を見直し、エキスパート群に資格を貼り付け、グループ会社内で異動する際に活用している。
- ・ 電話とインターネットでは顧客からの要求条件が異なる。電話は100年の歴史があり、ルールも決まっている。インターネットはルールがあるようで無い。インターネットのサービスで電話のサービスを提供する際に、こういった要件や技術者が必要になるかという意見をいただきたい。
- ・ OABJIP電話はベストエフォートではない。O50IP電話はベストエフォートであり帯域保証していない。OABJIP電話については、従来の固定電話の品質と信頼性を確保しようということで技術基準のとおりとしている。
- ・ IP化前からIP化後へ切り替わった時の大きな違いは何か。
- セキュリティの点では、悪意が無くてもスパムメールを出してしまう場合があり、また、ネットワークの規模に関係しないで影響が全体に広がるという問題がある。特にセキュリティの問題にボーダレス化を感じている。
- ・ IP時代になって、技術も組織もサービスもばらばらになって、水平分離になっている。サービスを提供している立場から言えば、お客から見るとエンドエンドであるべき。ビジネスモデルとしては、垂直統合を要求される。アウトソーシングもお客からアウトソースを受けて、得意技を活かして、エンドエンドでやっていくというのは、これからも進んでいくと思う。逆に我々が他の人にアウトソースすることもコストダウンを目的としてどんどんなされている。問題は、安ければいいという風潮が加速しているが、それが結果として事故の増大になっている。電話の時代にも事故はあったが、こんなに長引かなかった。長引くようになったのはなぜか。それは現場のスキルがないから。なおかつ、運用も何もかも全部アウトソースしてしまう。垂直にもものを見られるような技術者やそのスキル要件をどうやって育てていくかということが、運用の面にしても、産業の健全な発展にとっても非常に大事なこと。それが日本で忘れられている。そういった視

点も論点として今後取り込んでほしい。

- ・ インターネットにはつながるけれど時間がかかるといったいわゆる体感品質を考える技術者がいないと、ネットワーク全体がうまく動いているか分からない。この視点も検討に入れてほしい。
 - ・ 大学では電磁気学や電気回路等の基礎科目を勉強させているが、こういった科目は、電気通信主任技術者の要件として考えた方がいいのか。学生にとって資格取得はメリットがあると考えているが、この資格は取得してメリットある資格となりうるものなのかどうか。
- 教養として基礎は必要であると考え。ISPとしては、この資格のメリットに関してはあまり無いと考える。他のISPで運用していた者でも、転職して来てシステム構成等の違いから運用できるとは限らない。
- ・ 定義から言えば設備を有しない事業者になるが、NGNの話で言えば、プラットフォームを活用していろいろなサービスをやりたいと夢を持っている。設備の機能から技術要件を出していたけれど、エンドエンドの視点で議論をしていただくことが、これから事業を展開していく上で重要である。
 - ・ CATV事業者は、放送でスタートしてインターネットサービスも提供している。一部の大手を除いて、ほとんど通信に対する技術力が低いのが実情であり、人材確保や育成に課題がある。品質確保を前提として、小規模施設の技術者についてどうするか議論することに期待している。

(以上)